

交叉的中和試験

各分離株の毒素を免疫して得た4種の抗毒素血清を用いてA(97)型株毒素に対する交叉的中和試験を実施した結果は表の通りで何れもこれを中和する。

交叉的中和試験 (表6)

血清	A(97)				
	×○	×10	×50	×100	×1000
4	○○	○○	○○	○○	○○
11	○○	○○	○○	○○	○○
36	○○	○○	○○	○○	○○
38	○○	○○	○○	○○	○○
K	●●	●●	●●	●●	●●

考按及びむすび

吾国に於けるボトリヌス中毒は1951年中村等の報告を嚆矢とし、それ以後現在まで青森、山形、秋田の各県下に発生を見ているが、その何れもがE型菌によるもので、未だA型によるものは報告に接していない。(昭和36年度東北細菌学会席上弘前大学山本教授により青森県下に於けるB型菌によるボトリヌス中毒の発生例が報告された。於盛岡)

然し乍ら広木・若松等は1949~1951年に亘り南九州一帯の土壤を調査し同地方に相当広範囲にA型ボトリヌス菌の分布することを指摘した。

余等もこの度秋田県下の土壤から4株のA型菌を検出し得た。これらの事例は今後吾国に於てもA型菌による食中毒発生のおそれなしとは云えず食品衛生上更に留意すべきことと考える。

1) 秋田県下の土壤164ヶ所、3810検体の細菌学的検索を実施しA型ボトリヌス菌4株を検出した。

2) その生物学的性状はグラム陽性の有芽胞桿菌で蛋白を分解し、又Glukose, Lävulese, Maltose, Saccharose, Glycogen, Glycerin, を分解し酸を産生するが、Sorbit, Treharose, Dextrinは不定である。そのうち1株のみは、Mannitの下部を分解し異なる所見を示した。

3) 毒素中和試験では何れもA型抗毒素血清により中和されB型及びE型血清には中和されない。

4) 分離株毒素を免疫して得た抗毒素血清でA型毒素の交叉的中和試験の結果は、何れの血清もA型毒素を完全に中和する。

5) 分離菌株4株は何れもA型ボトリヌス菌と考えられる。

尚この実験に当り弘前大学山本耕一教授の御懇切な御指導を感謝する。

参考文献

- 1) 中村、飯田、佐伯：北海道衛研所報(特報)昭和27
- 2) 工藤義雄：青森県のボトリヌス症に関する調査研究(その1) 青森県衛生民生労働部 昭和34年
- 3) 山本耕一他：青森県のボトリヌス症について 青森県衛生部 昭和32
- 4) 山本、秋田、他：青森県のボトリヌス症に関する調査研究(その2) 青森県衛生民生労働部 昭和36
- 5) 齋藤、藤沢他：秋田県医師会雑誌6.1 昭和29
- 6) 齋藤、藤沢：秋田県医師会雑誌8.1 昭和31
- 7) 齋藤、藤沢：秋田県医師会雑誌9.1 昭和32
- 8) T.Wakamatus & H.Hiroki:the Kitasoto Archives of Experimental Medicine, Vol XXV, No 3 —4, May, 1953 他略

編輯後記

街にはそろそろ歳末の慌ただしさが流れ初めた師走の今日漸やく所報第6輯の編輯を終えたが、種々の事情から例年より大部おくれたことを深くお詫びします。

県内の彼方此方の漁場では既に鱈の大漁が報ぜられており、われわれは過去の飯ずしによる中毒を想起して悲劇が再び繰り返されぬよう願っています。

国の衛生行政施策の中にも逐次成人病に関する対策が取り上げられる機運にあることは誠に嬉しいことですが本県の脳卒中死亡は統計に示す如く日本一、いや世界一と云う極めて憂慮すべき実情であり、秋田県高血圧調査研究会の誕生は真に意義あることと思われ、その前途に予想される種々な困難を乗り越えて大きく成長されるよう念願しております。

終りに、御寄稿いただいた諸先生に厚くお礼を申しあげ、今後の御指導御協力をお願いすると同時に、近代的設備の研究所新築と云う大きな期待を胸にいだきつつ、古びた建物の中で不自由に耐えながら日夜職務に励む職員員の努力に対しては心から敬意を表する次第であります。(大村記)

秋田県衛生研究所報 第6輯 正誤表

頁	正	誤
目次 (1) 上 21 行	f 寄生虫卵検査成績	f 結核菌検査成績
" 上 22	g 結核菌検査成績	g 水 ()
" 上 24	i 飲料水、河川水の化学 検査に伴う大腸菌検査 成績	i 寄生虫卵検査成績
" 下 11	(E)飲料水中の弗素検査	(F)井戸水検査
" 下 10	(F)放射能検査	(E)飲料水中の弗素検査
" 下 9	(G)井戸水検査	(G)放射能検査
目次 (2) 上 11	トル	児玉栄一郎
1頁表 上 3	男鹿保健所長(兼務)	技師(兼務)
4頁 下 22	5,780	5,790
5頁 右 上 4	細菌	菌細
10頁表 下 1	19	10
11頁 第12表題末尾	(36・3・3) 入れる	—
12頁 第13表下 1	含ヒ素・ホウ酸・単純硫化水素泉	含ヒ素・ホウ酸・硫化水素泉
13頁 第14表 10月	19.00~9.00	夜~19.900
16頁 右 上 2 行	1 a	/a
19頁 右 上 7	ブイオン	ペイオン
22頁 左 下 12	血液加培地	血清水培地
22頁 第7表下 2	濾	濾
23頁 右 下 10	2 mm	2 m
24頁 右 上 14	沖 中	沖 中
" 右 下 10	胆汁	肝 汁
25頁 第3表	Laevulose	Leavulose
25頁 右 下 3	その他クリグラー培地	その他—クリグラー培地
26頁 第4表 題	Kligler	Kligley
26頁 右 上 6,7	Sulfisoxazol	Sulfisoxazol
26頁 第5表	mcg	mCg
" 第6表接種菌量	NaCl	NacL
29頁 第1表 上 5	64.3	64.4
31頁 上表 7 欄	9 不濾の事故 38.8	38.3
" 下表 3 "	197.4	197.7
" 下表 4 "	180.1	164.3
33頁 第4表 3 欄	114.1	114.0
34頁 上 5	nervous	nerous
34頁 第5表 下 4	イスラエル	イスライル
35頁 右表下 5	148.2	148.9
39頁 第7表 下 6	165.6	115.6
40頁 右表 下 9	125.2	125.1
45頁 第11表 West Berlin	289.5	209.5
" " 下 5	122.8	122.9
" " 下 9	148.1	148.1
48頁 第13表 上 6 欄	662.9	622.6
49頁 " 上 2 欄	21.5	2.15
" " 上 7 "	80.9	89.9
" " 下 2 "	(85.1)	(185.1)
" " " "	(100.8)	100.8)
51頁附表第16表 Israel	1965.8	1965.2
" 第15表下 7 欄	1368.8	1268.8
63頁 右1,3,4,5,10,11	濾	濾
63" 左 下 2	蒸溜水	溜水
64" 第2表 下 3	濾液	濾液
66" 表3 下 9	Glycerin	Glycein
" 左 上 2	チステイン	チフテイン
66頁 左 下 3	Treharose	Treharoe
" 右 下 4	37°C	3H°C
" (表4) 下 2	E (35396)	E (3596)
" (表5) 下 2	E (35396)	E (3539)
67頁 左 下 13	Laevulose	Läevulese
" 右 上 7	秋 山	秋田